

地球一周 4 万キロを歩いた人々

八柳 修之

FWA会報 6 月号に 2009 年 1 月以降の日本ウォーキング協会 (JWA) の地球一周 4 万キロ達成者リスト、25 名。また日本市民スポーツ連盟 (JAV) 4 万キロ達成者、28 名が掲載された。ウォーカーにとって地球一周 4 万キロ達成は一つの目標であり、勲章であろう。

JWA の地球一周 4 万 km も、JVA の 4 万 km も価値は同じだと思うのだが、前者は IVV によるもの、後者は IVV のないウォークの記録も加算できるとかで、前者に価値をおいている人が多いようだ。シルクロードを単独で歩いた大村一朗さんは、中国で一緒に歩いた青年が日記は中国では証明にならぬから郵便局でスタンプを押してもらって歩いていると言っていた。



地球一周 4 万キロといっても物理的距離、赤道一周の距離であるがピント来ない。陸地を歩いたとすれば、どうであろうか。釜山から 38 度線、中朝国境鴨緑江を越え、北京、西安からシルクロードを歩きローマ、ユーラシア大陸の先西端ポルトガルのロカ岬まで、米州大陸アラスカ、パンアメリカン・ハイウェイの始点フェアバンクスから南下して南米大陸最南端、ティエラデル・デル・フエゴまで歩いた距離になる。(HP 四季の道参照) こうイメージすれば、想えば遠くへ歩いたものだ。



長い距離を歩いた人として、先ず誰もが浮かぶのは伊能忠敬である。伊能忠敬の足跡については、井上ひさしの「4000 万歩の男」で書いた。井上は平均寿命が延びた時代において、退職後の人生を送るにあたって、忠敬的生き方は手本になると述べている。50 才で隠居、江戸に出て天文学を学び、1800 年 4 月、56 才で第 1 次測量蝦夷地を振り出しに、1816 年、72 才で第 10 次、江戸府内測量を終えるまでの 16 年間、井上は 4,000 万歩歩いたとしている。井上の小説によって 4,000 万歩は一人歩きしているが、文部省の小学生向け HP によると忠敬は日本地図作成のため 5,000 万歩、35,000Km 歩いたとしている。問題は忠敬の歩幅である。これを計算した人は、忠敬は 1 町

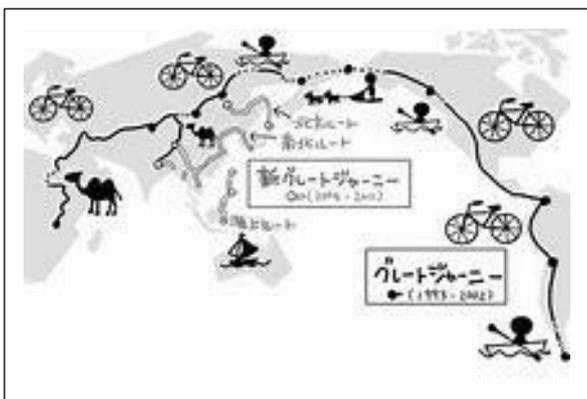
を 158 歩で歩いたという記録から、一步の歩幅は 69 cm と算出している、文部省 HP の 5,000 万歩とすれば、34,500km、地球一周 40,000Km に満たない。しかし、測量で歩き始めたのは 56 才からである。それ以前の生活を考慮すれば、優に 4 万キロ以上は歩いている。ちなみに忠敬の身長は 160 cm 位と推定される。身長と歩幅には相関がある。

JVA が発行するウォーキングライフ、3-4 月号に船渡川輝夫さんという方が、19 万 km 歩いたことが掲載されている。船渡川さんは以前 FWA に所属されていた方で、YR によく参加され YR ブロンズカード (60 回) を小川孝氏 (県央)、広瀬敏明氏、遠藤畔一郎氏 (故人)、小林茂雄氏に次ぎ 5 番目に達成されている。ちなみに広瀬氏、小林氏とともに現在も元気に歩いておられる。

19 万 km、地球を 5 周もした驚くべき記録である。月までの距離は平均 38.4 万 km、約半分の距離を歩いたことになる。月まででなくとも成層圏までは 1 万 km、国際宇宙センターは高度 400km であるから、大抵のウォーカーは歩いて行ったことになる。誰でも星になれる。

大和田精吾さん（会員）は、平成 27 年 12 月に日本最北端宗谷岬から最南端佐多岬まで縦断 3000 km、27 年 9 月北海道一周 14 日 610km を達成されている。日本列島は東西に長いことが分かる。（HP 平成 27 年 9 月及び 12 月、ひろば参照）。また小和田さんは、また五街道一人歩きを、43 日（27 泊）、1475km を達成されている。（HP 平成 26 年 11 月、ひろば参照） ちなみに日本国土海岸線総距離は 29,751km である。

本 HP で活躍されている平野武宏さん、池内淑皓さん。自分らしい歩き方を実践しておられる。人がいれば道あり、道あればそこに住む人の歴史がある。歩く前に調べる。歩いて確認する。ここまでは大抵の人がやっているが、歩いて見た結果をまとめ文章にする。最後に文章にし発表することが大切であることを教えてくれる。もうすでははるかに 4 万キロを優に超えている。



仮想から現実に戻り、伊能忠敬のように長い距離を歩いた人とその記録はないか、調べてみた。著作があるのは関野吉晴著の「グレート・ジャニー」。南米パタゴニアから人類の発祥地とされるタンザニアまで探検した記録がある。パタゴニアに住むヤーカン族の子供には蒙古斑があり、遙か人類が年月を重ね南米最南端まで到達した証拠である。その足跡を辿って見ると、1993 年 12 月、南米南端バリーノ島を出発し、1995 年アマゾン河源流中央探検、1997 年、ベーリング海峡横断。

1998 年、大興安嶺、中央アジア探検。1999 年ヒマラヤ縦断、そして 2001 年、東アフリカ、人類発祥地とされるタンザニアのラエトリまで 10 年かけてゴールした。その模様はテレビで放映され、写真も多数あり記録としては面白い。しかし途中、自転車やラクダに乗っているのだから歩いて 4 万 km には達していない。



日本で一番長い距離を歩いている人は誰か。それは競歩選手では無かろうか。最も身近な人がいた。日本の競歩の草分け、競歩界のレジェンドともいえる江尻 忠正さん、FWA 二代目会長、二代目 KWA 会長である。

1964 年東京オリンピック競歩 50km 代表選手で日本選手最高の記録で 22 位。その競技歴、練習ぶりなど、本 HP、ひろば、平成 25 年 11 月。2020 東京オリンピック決定に寄せて、1・2・3. および「四季の道」江尻さんコーナーに掲載されているので、ご覧いただきたいが、競技歴を見ると中高時代から陸上競技、社会人になってからは、競歩に専念。現在のよ

うに会社の PR のため恩典が与えられることはなく、勤務時間外に練習、休日には約 80km（日本橋・小田原間相当）も歩いたという。当時、勤務時間中に練習できるのは自衛隊体育学校生だけであったから、自衛隊の選手には負けたくなかったという。30 を契機に選手生活から指導者の道へ、定年退職後は、FWA・KWA 会長として指導者の育成に努められ今なおご健在である。ちなみに身長は 173 cm、歩幅は最高時 125 cm であった。江尻さんが仮に 15 歳から 30 歳で 1964 年の東京オリンピックに出場するまでの 15 年間、仮に 1 日 10km、1 年間 3,600km、15 年間歩いたとすれば 54,000km。30 歳以降、現在までお元気であるから歩いた距離は優に 20 万 km を超えている筈である。もっとも江尻さんは歩いた距離の長さではなく質、歩き方、楽しく歩くことが大切であると言われるであろう。また競歩は日本人に適した競技であるという持論であるから、最近の競歩選手の記録をみるとメダルの可能性は十分あり期待したい。（写真は筆者撮影）

一日 70km、25 日連続して歩いた男

シルクロードを単独で歩いた大村一朗さんによると、旅行中、トルコのコルフエズという町で声をかけてく

れたオジイサン。一日 70km、休みなしに 25 日間 (1,750km) 歩いたという。その快挙を伝える 1981 年のトルコの新聞を見せてくれたというから信じてよいだろう。

江戸時代、伊勢参りが盛んになると、各地から伊勢に向けて街道は賑わった。当時の人々は、例えば日本橋から京三条までの全行程 492km を 12~15 日で歩いた。一日で約 10 里 (約 40 km)、足弱といわれた女性連れでも、一日平均 6 里 (約 24km) 歩いた。江尻さんによると、昔の人がよく歩けたのは草鞋が身体によかったのだという。江尻さんの子供の頃は下駄で歩いたことが脳にもよかったと言っておられた。

JWA の全国大会で 100km 歩く大会がある。小塚四寿さんは 4 万 km 達成ウォーカーであるが、26 年 3 月に姫路城~大阪城間 100km に参加した記録を紹介している。70km を過ぎると苦しくなったというから、前記、トルコのジイサンの話と合わせれば、一日に適正に歩ける距離の限度は 70km であろう。(HP ひろば、26 年 3 月)

広く世界に目を向けると、「母をたずねて 3,000 里」という児童書がある。アニメで TV 放映されたからご存知の方も多いと思うが、マルコという少年が、遙かイタリアからアルゼンチンに出稼ぎに出かけた母親を訊ね歩くという物語である。結末は母に会えず、クリスマス之夜、教会で凍え死んでしまうというあまりにも悲しい結末である。



リアルの世界に目を向けると、イブ・バットウォータ (1304 年~1368 年)、モロッコ人。21 才のときメッカに巡礼し、その後 30 年かけてイスラム世界を旅行し、史上、偉大な探検家と言われる。その記録の抄訳本「三大大陸周遊記抄」があるが、残念ながら藤沢市の図書館には所蔵されていない。

以上、写真は無料画像使用